

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月19日（火）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

16

帽子の色 白

明大中野

9

1	－	5
1	－	2
2	－	4
5	－	4
PSO		

帽子の色 青

西京

15

審判1： 吉田 涼吾

審判2： 城之下 智喜

戦 評

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は、8月19日（火）、山口きらら博記念公園水泳プールで準々決勝・ゲーム番号16、明治大学附属中野高等学校（白帽）と西京高等学校（青帽）の一戦が行われた。全国屈指の強豪同士が顔を合わせた注目のカードは、観客を惹きつける攻防の応酬となり、最後まで熱を帯びた試合展開が続いた。

立ち上がりは地元開催の利を背にする西京が勢いを見せた。第1ピリオド開始早々、⑩三宅が力強いドライブから退水を誘発し、リバウンドを自ら押し込み先制点。さらに⑤濱川がゴール前で退水を奪い、④長野が冷静に決めた。守備から攻撃への切り替えも鋭く、終盤には④長野がミドルに加えカウンターでも得点を挙げ、このピリオドだけで計5点を奪取。攻守に圧力をかけ、1－5と大きくリードを広げた。対する明大中野も⑥鈴木が退水セットから得点を決め一矢報いたが、思うようにリズムをつかめなかった。

第2ピリオド、明大中野は⑦伊藤が巧みに相手ディフェンスを抜け出しゴールを奪い、反撃の糸口をつかむ。しかし西京の守護神①清角がファインセーブを連発。相手の鋭いシュートをことごとく防ぎ、流れを渡さない。攻撃では⑨毛利山が粘り強く相手を回し込みペナルティを誘い、⑤濱川がきっちり沈める。さらに⑩三宅も退水セットから得点を加え、着実に点差を維持した。前半を終えた時点でスコアは2－7、西京が優位を保った。

第3ピリオドに入ると、明大中野が誇るエース②武田が本領を発揮。ゴール前で強靱なフィジカルを活かして2人のマークを突破し、続けざまに得点を重ねた。⑤吉岡も居残りカウンターから冷静に沈め、チームを鼓舞する。しかし西京も勢いを止めない。④長野の豪快なミドル、②荒川の左サイドからの鋭い一撃、さらに⑦長尾の得点が重なり、終盤には⑤濱川が退水を誘発した後のタイムアウトから長野が得点。地元の大声援を背に、一瞬も気を抜かない集中力を見せつけた。このピリオドは2－4、西京がさらに差を広げた。

最終第4ピリオド、意地を見せたのは明大中野だった。⑤吉岡がミドルを突き刺すと、③中野も鋭いシュートで続き、②武田と⑦伊藤も決めて一気に5点を奪取。攻撃力の高さを存分に披露し、最後まで勝負を諦めない姿勢を示した。しかし西京も勝負所でしっかり対応。⑤濱川がフリースローから追加点を決めると、⑦長尾や③井上も得点を重ねる。終盤には⑨毛利山がカウンターから締めめのゴールを挙げ、最後まで攻撃の手を緩めなかった。

試合は9－15で西京高等学校が勝利。西京は④長野と⑤濱川を中心とした多彩な攻撃が冴え渡り、要所でGK①清角が冷静にゴールを守るという理想的な展開で勝ち切った。組織力と個人技が高い次元で融合した見事な試合運びであった。

一方で、敗れた明大中野も評価すべき点が多い。②武田の圧倒的な突破力と決定力はさすがの存在感であり今後の成長が楽しみである。⑤吉岡や⑦伊藤も果敢にゴールへ向かい続けた。GK⑬上山も前日の試合に続きセービングで見せ場を作り、最後まで勝負を捨てないチーム全体の粘りは観衆の胸を打った。

最終スコアの差以上に、両校が互いの力をぶつけ合い、最後まで全力を尽くしたからこそ、この試合の最大の魅力である。西京の快勝は地元を大いに沸かせたが、明大中野が示した闘志と誇りある戦いぶりもまた、大会の歴史に刻まれるにふさわしいものだった。

記 録 者

伊藤・加藤・菅原